

履歴書

氏名 ピーター・グルース

生年月日 1949年6月28日

出身地 ドイツ、アルスフェルト

家族構成 妻、子ども2人

学歴

1977 ルプレヒト・カール大学ハイデルベルク博士課程修了
1974～1977 博士論文：「溶菌サイクルにおける SV40 DNA」
ドイツがん研究センター、ウイルス研究所、ハイデルベルク
1973～1974 卒業論文：「ミラビリス変形菌の細胞壁におけるペプチドグリカン- (リポ)
タンパク質複合体の化学組成と不安定 L 型菌」
微生物学研究所、ダルムシュタット
1968～1974 ダルムシュタット工科大学、生物学専攻
1968 大学入学資格取得 (アビトゥーア)

職歴

2017～ 沖縄科学技術大学院大学学園理事長兼沖縄科学技術大学院大学学長 (現職)
2002～2014 マックス・プランク学術振興協会会長
1997～1998 マックス・プランク生物物理化学研究所 (ゲッティンゲン) 所長
1990～ ゲッティンゲン大学名誉教授
1986～2014 マックス・プランク生物物理化学研究所 (ゲッティンゲン)、分子細胞生物学
部部長
1983～1986 ハイデルベルク大学分子生物学センター (ZMBH) 理事
1982～1986 ハイデルベルク大学、微生物学准教授
1978～1982 アメリカ国立衛生研究所 (NIH)、アメリカ国立がん研究所、
分子ウイルス学研究室 (米国メリーランド州、ベセスダ)
1981～1982 NIH 客員研究員
1980～1981 NIH 専門コンサルタント
1978～1980 NIH 博士研究員
1977～1978 ドイツがん研究センター、ウイルス研究所 (ハイデルベルク) 博士研究助手

主な業績表彰等

- 2017 マックス・プランク学術振興協会ハルナック・メダル
2012 バイエレン・マクシミリアン科学芸術勲章
2012 エリス島名誉メダル
2009 ドイツ連邦共和国功勞勲章、一等功勞十字章
2007 中華人民共和国国際科学技術賞
2004 ニーダーザクセン州賞
2003 フィルヒョー・レクチャー&アワード (ヴェルツブルク)
2003 ジョージ・クーリ・レクチャー (ベセスダ)
2002 バーソルド・メダル&ドイツ内分泌学会レクチャー (ゲッティンゲン)
1999 1999年度ドイツ未来賞、テクノロジー&イノベーションドイツ連邦大統領賞
1999 1999年度ドイツ科学助成財団連盟科学都市賞 (人文科学振興のために後援者会より授与)
1995 Louis Jeantet 医学賞 (ジュネーブ)
1995 レオポルディーナ・カルス・メダルおよびシュヴァインフルト市カルス賞
1994 ジェンキンソン・メモリアルレクチャー (オックスフォード)
1994 ドイツ研究振興協会 (DFG) ライプニッツ賞
1992 コレージュ・ド・フランスメダル (パリ)
1992 Jean Brachet メモリアルレクチャー、国際細胞分化学会賞
1992 ブーテナント・生物化学学会レクチャー
1992 NIH-Scholar-in-Residence 賞
1992 フェルトベルク・レクチャー賞
1983 クラウスタール=ツェラーフェルト・ロベルト・コッホ・キャリアデベロップメント賞
1983 化学基金より講師給付金交付
1981 ハイゼンベルク助成金受給
1978 ドイツ研究振興協会 (DFG) より博士研究員奨学金受給

主な所属学会および活動

- マックス・プランク学術振興協会会員 (名誉会員) アメリカ芸術科学アカデミー会員
ドイツ自然科学者アカデミー・レオポルディーナ会員 (1995年より) 欧州アカデミー (欧州科学アカデミー) 会員
ニューヨーク科学アカデミー会員
バイエルン科学・人文科学アカデミー会員 (ミュンヘン) 科学アカデミー会員 (ゲッティンゲン)
ポーランド科学アカデミー外国人会員 (ワルシャワ)
日本学士院客員
- 欧州分子生物学機構 (EMBO) 会員
EMBO 基金委員会委員 (1988~1992)
EMBL (欧州分子生物学研究所) 審議会会長 (2000~2002) ; 代表 (1992~2000)
- アンゲラ・メルケル首相による連邦首相府「イノベーション・ダイアログ」会員 (2006~2014)
ドイツ科学組織同盟会員 (2002~2014)
ドイツ研究振興協会評議委員 (ボン) (2002~2014)

ドイツ工学アカデミー、ドイツ科学・人文科学アカデミー連盟技術科学審議会評議員（2002～2014）

ドイツ工学アカデミー評議員（2015年より）

フラウンホーファー研究機構評議員（ミュンヘン）（2002～2014）

オーストリア科学アカデミー評議員（2014年まで）

ドイツ研究振興協会動物実験研究評議委員会委員（1992～1996）

欧州連合「人的資本と流動性」プログラムパネル委員（1992～1994）

ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラムパネル委員（1990～1992）

ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム科学者会議ドイツ代表（1995～1999）

ダルムシュタット工科大学評議員（2005～2009）

ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン評議員（2007～2011）

ヒトゲノム国際機構（HUGO）会員

ドイツ発生生物学会会員

ドイツ発生生物学会副会長（1994～1996）

欧州発生生物学機構（EDBO）副機構長

国際発生生物学会会長（1993～1997）

国際細胞分化学会理事

世界技術革新基金（WIF）名誉会員

世界知識対話名誉理事

A*Star 生物医学研究諮問委員会委員（シンガポール）（2004～2010）

マックス・プランク生化学研究所科学諮問委員会委員（ミュンヘン）（1994～1997）

マックス・プランク免疫学研究所科学諮問委員会委員（フライブルク）（1992～1997）

マックス・プランク精神医学研究所科学諮問委員会委員（ミュンヘン）（1998～2002）

ウェルカム・CRC 研究所科学諮問委員会委員（ケンブリッジ）（2000）

キングス・カレッジ（ガイズ病院）科学諮問委員会委員（ロンドン）

ドイツがん研究センター評議員（ハイデルベルク）（1994～1998）

ベーリンガーインゲルハイム基金科学諮問委員会委員（1990～1994）

国立生物学研究センター科学諮問委員会委員（マドリッド）

Randall Institute 発生生物学研究グループ科学諮問委員会委員（ロンドン）（1995～1998）

分子薬理学研究所科学諮問委員会委員（ベルリン）（1997～2000）

ケーバー欧州科学賞管理委員会議長（2002～2014）

ドイツ未来賞管理委員会委員（2014年まで）

ヨハンナ・クワント・プライベート・エクセレンス・イニシアチブ学術諮問委員会委員（シャリテ財団）（2013～2016）

シーメンス・テクノロジー&イノベーションカウンシル議長（2015～2018）

デロイトトウシュ諮問委員会メンバー（2009～2016）

フランシスクリック研究所 Ltd. ディレクター（2015～2017）

ワイツマン科学研究所ボードメンバー

出版・編集活動

eLife Sciences Publications 社理事（2012～2014）

Mechanisms of Development 誌編集長（1990～2001）

Cell 誌共同編集者（1990～1999）

Science 誌審査編集者委員会委員（1995～2000）

Trends in Genetics 誌編集顧問委員会 (1992~1996)

Development 誌編集顧問委員会委員 (1996~1998)

所属監査役会等

シーメンス社監査役会委員 (2008~2015)

ミュンヘン再保険グループ監査役会委員 (2009~2016)

アリアンツ社 (ミュンヘン) 合同諮問委員会委員 (2004~2009)

アクテリオン社理事 (2011年より)

DeveloGen 社監査役会委員 (1997~2008)

主な国際会議企画・共同企画

2008 リングベルク・フォーラム 2008 "Wissen aus erster Hand"

2006 「研究の視点：機関による研究課題の特定と実施」

(リングベルク城、ロットアッハ=エーガーン)

2001 ライト・サイエンス・コロキウム、「がん、エイズ、アルツハイマー病：研究と有望な治療」 (ゲッティンゲン)

2000 HFSP 会議 (ゲッティンゲン)

2000 コロキウム、「脳の発達と機能の分子解析」 (フランス、Fondation des Treilles)

1999 ライト・サイエンス・コロキウム、「遺伝子と生命の発生」 (ゲッティンゲン)

1998 コロキウム、「脊椎動物の神経系発生の分子遺伝学的解析」 (フランス、Fondation des Treilles)

1997 ISDB/SDB 会議 (ユタ州、スノーバード)

1996 ジャックモノー・カンファレンス (フランス、ラ・ロンド=レ=モール)

1995 ESF ワークショップ：脊椎動物発生の遺伝子制御 (クレタ島、コリンバリ)

1995 EMBO Practical Course：マウスとニワトリの発生

1994 第2回 ESF カンファレンス：発生生物学 (スイス、Kartause Ittingen)

1991 HFSP ワークショップ：脊椎動物発生の遺伝子制御 (スイス、レ・ディアブルレ)

1991 EMBO Practical Course：分子手法を用いたマウス発生 (ゲッティンゲン)

1989 EMBO Practical Course：発生と進化におけるホメオボックス (スイス、グヴァット)

1989 マウス分子遺伝学シンポジウム、EMBL (ハイデルベルク)

1989 FEBS Winter School：発生生物学 (オーストリア、ザルツブルク)

1987 第7回組換え DNA 研究年次総会 (米国、サンフランシスコ)

1986 「幹細胞分化とマウス発生における遺伝子発現の制御」、

EMBO ワークショップ (ハイデルベルク)

1986 第6回組換え DNA 研究年次総会 (米国、ボルチモア)

1984 「分子手法を用いた幹細胞分化とマウス発生」 EMBO ワークショップ (ハイデルベルク)

1983 「原核生物系および真核生物系におけるクローン遺伝子の発現」 (ハイデルベルク)

1988~2000 年次リングベルクワークショップ：遺伝子調節と発生 (リングベルク城、ロットアッハ=エーガーン)

引用回数の最も多い研究論文トップ 10

- Walther, C., P. Gruss : 「マウス遺伝子 (paired box gene) *Pax-6* は、発生過程にある CNS に発現する」 *Development* 誌第 113 巻第 4 号 : 1435~1449 ページ (1991)
引用回数 : 908 (Web of Science より)
- Kessel, M., P. Gruss : 「レチノイン酸によって誘導されたマウス椎骨のホメオティック転換と *Hox* コードの付随した変化」 *Cell* 誌第 67 巻第 1 号 : 89~104 ページ (1991)
引用回数 : 775 (Web of Science より)
- Weiherr, H., M. König, P. Gruss : 「SV40 ウイルス増強因子に作用する複合突然変異」 *Science* 誌第 219 巻第 4585 号 : 626~631 ページ (1983)
引用回数 : 771 (Web of Science より)
- Eliyahu, D., A. Raz, P. Gruss, D. Givol, M. Oren : 「正常な胚細胞の形質転換における p53 細胞性腫瘍抗原の関与」 *Nature* 誌第 312 巻第 5995 号 : 646~649 ページ (1984)
引用回数 : 706 (Web of Science より)
- Seale, P., L. A. Sabourin, A. Girgis-Gabardo, A. Mansouri, P. Gruss, M. A. Rudnicki : 「*Pax7* は筋原性衛星細胞の特定化に必須である」 *Cell* 誌第 102 巻第 6 号 : 777~786 ページ (2000)
引用回数 : 688 (Web of Science より)
- Goulding, M. D., G. Chalepakis, U. Deutsch, J. R. Erselius, P. Gruss : 「初期神経形成期に発現される新しいネズミ DNA 結合蛋白質 *Pax-3*」 *EMBO Journal* 誌第 10 巻第 5 号 : 1135~1147 ページ (1991)
引用回数 : 674 (Web of Science より)
- Cecconi, F., G. Alvarez-Bolado, B. I. Meyer, K. A. Roth, P. Gruss : 「ほ乳類の発生において *Apaf1* (*CED-4* ホモログ) はプログラムされた細胞死を制御する」 *Cell* 誌第 94 巻第 6 号 : 727~737 ページ (1998)
引用回数 : 643 (Web of Science より)
- Khoury, G., P. Gruss : 「エンハンサーエレメント」 *Cell* 誌第 33 巻第 2 号 : 313~314 ページ (1983)
引用回数 : 575 (Web of Science より)
- Laimins, L. A., G. Khoury, C. Gorman, B. Howard, P. Gruss : 「SV40 と Moloney ネズミ肉腫ウイルスからの直列反復による転写の宿主特異的活性化」 *米国科学アカデミー紀要* 第 79 巻第 21 号 : 6453~6457 ページ (1982)
引用回数 : 554 (Web of Science より)
- Furth, P. A., L. St-Onge, H. Böger, P. Gruss, M. Gossen, A. Kistner, H. Bujard, L. Hennighausen : 「テトラサイクリン応答プロモーターによるトランスジェニックマウスの遺伝子発現の一時的な調節」 *米国科学アカデミー紀要* 第 91 巻第 20 号 : 9302~9306 ページ (1994)
引用回数 : 551 (Web of Science より)
調査日 : 2013 年 5 月 2 日

科学政策への提言

Gruss, P. : 「欧州におけるヒト ES 細胞」 *Science* 誌第 301 巻 : 1017 ページ (2003)

Gruss, P. : 「科学と文化へのオープンアクセス」 *Science* 誌第 303 巻第 5656 号 : 311~312 ページ (2004)

Gruss, P. : 「ドイツ社会は、国際社会の中での発言力の維持を望む」 *Nature* 誌第 444 巻第 7118 号 : 422 ページ (2006)

Gruss, P. : 「基礎研究主導」 *Science* 誌第 336 巻 : 392 ページ (2012)

著書

Gruss, P. : *Die Zukunft des Alterns*. C.H. Beck Verlag (2007)

Gruss, P., F. Schüth : *Die Zukunft der Energie*. C.H. Beck Verlag (2008)

Bonhoeffer, T., P. Gruss : *Zukunft Gehirn*. C.H. Beck Verlag (2011)